

気仙沼地域プロジェクト(近海まぐろはえ縄・145トン型)

もうかる漁業創設支援事業実施結果報告

【事業実施者:気仙沼漁業協同組合】

実証期間:平成22年8月10日～平成25年8月9日

気仙沼地域の近海まぐろはえ縄漁業において、145トン型改革型漁船を導入し、低抵抗船型、低燃費型主機関等による省エネ化並びに省人化機器導入による省人化等により生産コストの抜本的な引き下げを図るとともに、魚艙内温度管理の高度化による高鮮度製品増産により水揚げ金額の向上を図り、もって収益性を改善することをねらいとする実証事業を行った。

実証項目

【生産に関する事項】

①省エネ・省力・省人化

②労働環境の改善・安全性の確保

③高鮮度化による付加価値向上

④環境汚染防止・自然保護

【流通・販売に関する事項】

安全・安心な漁獲物の提供

実証結果

【生産に関する事項】

①145トン型の改革型近海まぐろ延縄船を導入し、従来に比して乗組員が1名少ない15名体制で操業した。各年度の操業回数及び漁獲量(ヨシキリザメ及びメカジキ主体)は、初年度173回、455トン、第2年度172回、486トン、第3年度166回、484トンで、初年度を除き改革計画の漁獲量目標値469トンを上回った。年間燃油消費量は、初年度544kl、第2年度583kl、第3年度536klで、第2年度を除き改革計画の目標値580kl(同型従来船の年間消費量699.4klの17%削減)を下回った。これらの結果は、15名体制の操業と、燃油消費量の20%程度削減が可能であることを示唆している。

②実証船の寝室面積(1.5㎡/人)を従来船(1.2㎡以下)に比し0.3㎡拡充するとともに、居住区に空調を整備し居住環境を改善した。また、船型改良(遮浪甲板)を行い、荒天時の甲板作業の安全性を強化した。

③漁獲物、魚艙、甲板等の殺菌水による洗浄、魚艙内温度管理工程の導入による鮮度保持に努めたが、魚価は東日本大震災により気仙沼地域の水産関連施設が被災したこと起因し低迷した。特に主要製品のひとつであるヨシキリザメの平均価格は、フカヒレの世界的需要の縮小もあって改革計画の目標値(239円/kg)に比し、初年度192.8円/kg、第2年度160.7円/kg、第3年度111.3円/kgと大幅に下落した。

④トリポール設置により、鳥類の混獲は、初年度9羽、第2年度14羽、第3年度30羽に留まった。サークルフック採用により、ウミガメの混獲は初年度26匹、第2年度9匹、第3年度20匹で、全て生存しており、海に帰された。そのほか、ヨシキリザメを主体とするさめ類の未成魚の放流を実施した。

【流通・販売に関する事項】

①東日本大震災によって気仙沼地域の水産関連施設は甚大な被害を受けたが、メカジキ及びヨシキリザメを含む気仙沼ブランドの復興及び地域HACCPの再構築のため関係者が一丸となり取り組んでいる。

収支の状況について

水揚げ金額は、改革計画の目標値170百万円に比し初年度177百万円、第2年度184百万円、第3年度143百万円と、第3年度を除き改革計画の目標値を上回った。償却前利益は、初年度の目標値20百万円に対して16百万円、2年度の目標値21百万円に対し25百万円、第3年度の目標値22百万円に対し△16百万円であった。このように、実証船は燃油消費量削減等生産コスト削減に初期の成果を得ることが出来たこと、並びに高鮮度製品の生産等に努めたことにより、主要水揚げ製品であるヨシキリザメの販売単価が改革計画の目標値の半額に下落した第3年度を除き、目標の償却前利益を得ることが出来た。